

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	グループホーム翁頭
(ユニット名)	あじさい棟
所在地 (県・市町村名)	長崎県五島市野々切町253-1
記入者名 (管理者)	北川 絹代
記入日	平成 20年 10月 28日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
	家族的な雰囲気のもと地域の中で、一人ひとりが自立して、もっている力をだせるように、信頼関係を持ち穏やかに、笑顔で暮らせるように、気持を尊重し、楽しい日々を過ごせるように、と人権意識をもち、サービス向上を図る為職員の意見を集約した理念を掲げています。		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
	毎朝引継ぎミーティング時に、理念を唱和して、理念に基づいた介護に日々留意しながら取り組んでいます。		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
	ご家族、地域の自治会、老人会、小学生の慰問の折々に当ホームの理念その他を説明して、理解を得るようにしています。		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
	運営者を始め職員は気軽に声を掛け合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるように、努めています。当ホームの敬老会にお呼びしたり、またお隣の方は野菜等を形が悪いものだけどとって持って来て下さったりと、いいお付き合いをさせていただいています。		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		
	自治会へ加入し、地域の運動会や敬老会等の催しに一人でも参加したい方がいれば参加するようにしています。また地域の老人会等の慰問・小学校の生徒さんの学習活動等も受け入れて交流を行なっています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	以前より公民館で、家庭における介護の方法等の説明会を開催してはどうだろうかとか提案はあるのだが、いまだ実現に至っていません。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	自己評価を全職員で出し合い、評価の意義、当ホームの欠点や長所を理解し、欠点については改善に努力し、長所については続けていくように取り組んでいます。		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	運営推進会議は2ヶ月に一度の割合で開催しています。入所者や地域の皆さんからの意見やホームの行事の説明をしてきましたが、評価への取り組み状況報告や話し合いを行うことまではしていませんでした。		次回11月の会議に取組状況報告や話し合いを行いたいと思います。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	現在は運営推進会議及び書類提出時しか、市との行き来する機会が持てていません。		市町村の協力がなければ出来ないことですので、機会を図り協力指導を仰ぎたいと思っています。
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	今までに管理者他2名の職員が研修会へ参加していますが、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会が少なく、多くの職員が研修する機会がありません。また今まで必要な事例にも関わった経験がありませんでした。		冊子からや研修等の機会があれば積極的に職員に参加を呼びかけ、学んでいきたいと思っています。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	理念に沿った、利用者を大切に尊厳をもって介護にあたるよう、ミーティングその他折にふれ話し合ったり、高齢者虐待を考える等の冊子を回覧して自覚を持つようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者、介護支援専門員の事前訪問で、ご本人の状態、ご家族の不安等を把握し、大まかな介護プランを契約時、解約時にサービス内容その他と合わせて説明を行うようにしています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に相談・苦情の窓口及び担当者を明記しており、説明を行っている。また苦情箱をホールに設置しており、入居者には相談・苦情・意見がないか働きかけをしています。また運営推進会議に入居者代表の参加をいただき、要望、意見を出していただき、あった場合はミーティングにて協議し、検討します。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者のホームでの生活の様子は個人1ヶ月の介護記録を、また金銭管理出納帳、領収書、翁頭便りを請求書発送時に同封して、毎月ご家族に報告しています。</p>	<p>職員の異動については、できるだけ異動がないようにしてきましたが、退職者がいる時等、移動の必要にせまられる場合がありますので、今まで報告していませんでしたが、これからは報告するようにしたいと思います。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に相談・苦情の窓口及び担当者を明記しており、説明を行っている。また苦情箱をホールに設置しており、入居者ご家族には面会の折等に相談・苦情・意見がないか働きかけをしています。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者及び管理者は職員からの提案については、殆どの提案を受け入れている。ただし疑問に思いう件については、全職員ミーティングに図り、皆の意見を聞いてから取り入れるかどうか判断するようにしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況の変化に応じて対応ができるように、ケアマネ始め主任、職員と話し合いを持ち勤務の調整をしている</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動については、前項に述べたようにできるだけないようにしてきましたが、離職者がでた場合に入所者の影響を異動により最小限にするような努力をしています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修会には極力受講できるように、勤務表の作成に取り組んでいます。特に島内の研修にはかかさず多くの職員が受講できるようにしていますが、一部の職員だけが受講を希望するのが多かったようである。		研修案内を机の上に置いてあり、全職員に見るように言って参加希望者が受講できるように、勤務表の作成に当り、受講してもらっていましたが、全員が目を通すことがなかったみたいで、今後は回覧にして、皆が受講できるようにしていきたいと考えています。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、交流ネットワーク作りに参加しています。協会員の提案により、勉強会等の開催も行われており、毎回参加して、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレス軽減の環境づくりとして、職員等から備品や設備の提案があった場合は極力提案に沿うようにしています。精神的なストレスの軽減については、ミーティング等で提案をはかりますが、適切な具体案は出ていません。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	休みでも各研修会に参加する職員や他の職員であっても、勤務時間によっては、受講できるように勤務表を工夫したりして、向上心を持って働けるような環境をつくっています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けた当初から管理者、介護支援専門員、計画作成担当者が相談者宅を訪問し、本人の状況についてご本人またはご家族から話を聴き、入所してからはさらに計画作成担当者、担当者が話を聴きケアプランに反映して、ご本人にあったケアをしていくようにしています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	前項に述べた通りご家族の状況も同様に聞き、入所後も面会時等に聴くようにして、ケアプランに反映しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず介護支援専門員と計画作成担当者が支援の方針を決定して、その方針に基づいて各職員が支援していき、その他の対応がある場合はその都度協議する。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームを知っている方や評判を聞かれた方が面談、見学の後入居を希望される事が多く、馴染むまで始めのうちはご家族に来て頂いたりして徐々に馴染めるよう安心して生活できるよう支援して行くようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の笑顔を何よりの励みとし、畑仕事を教えてもらったり一緒に作業しながら収穫時など共に喜び合ったり、また料理を作るときなどどうしたらいいでしょうかなど方法や味付けを聞いて作ったり、支えあいながら生活しています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の方の1ヶ月の行動生活の様子を送付していますが、その中で喜びのある事柄をして頂いた場合等は、面会にこられた折など一緒に喜び合ったり支えあう関係作りをしています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームの行事等、ご家族が参加できるような場合は極力参加いただくことで、良い関係作りをしています。ご家族との面会はいつもの笑顔とは違ういい笑顔を皆さんされています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話、はがきを望まれた場合は支援し、行きたい場所がある場合はできるだけ希望に沿うようにしています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者皆さんで絵や習字を描いたり、それができない、したくない方は洗濯物をたたんだりその他のことを利用者の皆さんや職員と一緒にできることをすることで、利用者同士や職員との係わり合い、支えあう関係作りに努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設に移られた利用者の方など、こちらの職員が面会にいたり、またこちらに遊びに来たいと言われる時は、喜んで受け入れています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや希望は、ある程度のことはケアプランに記載していることだが、日々の生活の中でプランに無いこと、伝えたいことなど把握に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴や生活環境、大切にしている事などの情報をケアプランに盛り込み、経過等各職員が把握共有に勤めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の過ごし方や訴え等に耳を傾け、よく聞いて心身状態その他総合的な把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人には普段の生活の中で、ご家族には面会に来られた時や電話などでケアのあり方について、話し合い介護計画の中に意見や要望等を反映した作成をしています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画期間は基本的に3ヶ月を明示し、変化が生じた場合はその都度ご本人ご家族と話し合いを持ち、新たな計画作成をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はご家族に送付する1か月の記録シートと、毎日の記録ノート等に時間毎の利用者の様子や言動、行動、食事、排泄、身体状況を具体的に記録し、介護計画の作成に活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人やご家族の状況、要望に応じて通院支援を行っている。また墓参りに帰りたいとか、家の状況を見に行きたいとか、買物に行きたい時などの個別支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地区民生委員の訪問や小学校の学習活動による訪問、防火訓練時に地域消防団との連携による避難訓練等地域の皆さんの協力を得ながら支援しています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人、ご家族の意向や必要に応じて、他施設のケアマネジャーや事業者と話し合いを持ち、他サービス利用についての支援をしています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ケアマネジャーとの連携により長期的なマネジメント等について、情報交換を図っているが協働しているとまではいえません。		積極的に地域包括支援センターとの連携を図り情報交換や指導を仰ぎたいと思います。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、受診及び往診をしていただきながら、適切な医療の支援をしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ケアマネージャーが受診時に認知症に詳しい精神科医と連携をとり、現状の様子、経過報告等により治療の参考にしていただき、適切な治療の支援をしています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	地域の看護ステーションとの連携により、ご利用者の日常の健康管理や医療機関医師との連携を図る支援をしています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した時等、病院に時々様子を見に行ったり、ご家族と話したり、入院診療計画をご家族からいただいたり、医療機関から呼ばれて説明を受ける場合等ケアマネージャーもご家族に同席して、一緒に説明を受けるような連携をとっています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	前項看護ステーションとの連携により終末期のあり方について、話し合いを持っているが、全員で共有するところまでは至っていません。		早い段階からご本人やご家族等、かかりつけ医等と話し合い、全員で方針を共有するようにしなければならないと考えています
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看護ステーションとの間で「できること・できないこと」をよく検討しあい、かかりつけ医との連携もステーション看護師と一緒に取り組み、今後に備えて検討、準備を行っています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族ご本人に関わるケアマネージャーと十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージが少なくなるように努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの性格を考慮し、言葉掛けには十分留意し、記録等の個人情報については、各職員が注意しながら記録しています。毎月の便りに写真掲載をして、ご家族には喜ばれていましたが、個人情報の観点からのご指摘がありましたので、同意書をいただきました。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>散歩や野菜作りその他をしやすいように、さん行きませんかー、何々しませんかー、と職員はよく声掛けをしてくれています。そういう時には昔の話や子供さんの話しなどしたりしています。したくない時などは今度しましょーねーと納得しながら生活できるような支援をしています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者のペースを大切に、その時のご本人の気持ちを思いやりながらその日を楽しく過ごせるように支援しています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>利用者の個性を尊重し、美容院に行かれる方はご家族と行く日をカレンダーに書きこんであり、その日は送迎支援をしています。当ホームで理容師さんにしてもらう方は来る日がわかるように食堂のカレンダーに書き込んで、何時いつ来ますよーと知らせています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>何日間のメニューを食堂のボードに書き込み、楽しみが持てるようにしている。また職員も同じ食卓に着き、硬くないですかー、辛くないですかーおいしいですかーと声掛けしながら、一緒に食事を楽しみながら片付けも、それぞれのできる範囲で職員と一緒にするようにしています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの状況に合わせて、食べたいものなどをご本人と一緒に買物にいたり、買ってきたりして好みのものを楽しめるように支援しています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	利用者一人ひとりの排泄の状況をその都度記録しながら、自立に向けた個別の排泄の支援を行い、ご利用者の様子を見ながらさり気ない排泄誘導の支援をしています。		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	現在週に2回入浴のない日を設けていますが、希望があれば入れるようにしています。		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	通常はご利用者一人ひとりの睡眠や生活習慣を把握し、そのリズムに合わせて過ごされるよう支援していますが、不眠の訴えがある場合は、かかりつけ医師と相談のうえ睡眠導入剤の服薬支援をしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	歌が好きな方、体を動かすのが好きな方、書を書くのが好きな方との方々が折々の行事等で、役割、力を楽しみながら活かせるような支援をしています。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	利用者個々の希望や力に応じて、お金を所持したり使えるようにしていますが、預かり金管理出納帳を個別に作成して、病院等その他の出納管理もしています。毎月末締めで月初めにご家族へ領収書と共に送付しています。		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	利用者が希望される場合は買物に出かけたり、また職員のほうから散歩にいきませんかと声掛けしたり、穏やかな天気の日などは外のベンチのところで歌ったり、花をつんだり支援しています。		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	春は桜の花見に、秋には漁ヶ崎のコスモス畑を見物におにぎり弁当を持って全利用者職員で出かけるなど支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話をかけたい時は、かけてあげてからご本人に代わって話が直接できるように、ご家族からかかって来たときは、居室まで持って行ったり、手紙がきた場合は直接手渡しするように支援しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族が来られた時は、全職員が明るく挨拶対応するよう、また居室畳の間にテーブルが設置してあり、ご家族、友人、知人の訪問でゆっくりくつろいで話ができるようにしています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの取組に努めています。禁止の対象となる具体的な行為は、ケアマネージャー、介護主任と協議しながら一般職員とも話し合い、正しい理解に努めています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望のある方には、職員の見守りの強化と連携により、鍵をかけないケアに取組み、ご利用者の安全の確保と自由な生活支援に努めています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のプライバシーに配慮するのは当然のこととし、昼夜を通して所在と行動、様子を把握することで利用者の安全に努めています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	原則的にナイフやハサミ等は事務所に保管していますが、使っても大丈夫と思われる方には使ってもらっています。また使用時には職員が把握し、見守りするようにしています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止には見守りが一番だと考えていますが、支援中などどうしても目が届かない場合があります。その場合は予測をたてながら、この方はこう行動するだろうとか事故をなくす工夫が必要だと考えています。また事故報告書を全職員が見れるよう回覧して次の予防に役立てるようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	一年に一度、市消防署救急隊の訓練講習を受講していますが、回数的に少ないのではないかと、考えています。		講習の受講も必要ですが、ホーム内自己研修等も数多く開いて実際に対応できるようにしていくようにしなければと考えています。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に昼夜を問わず避難できるよう、特に夜は職員が手簿になるので、地域の消防団の協力を得て合同訓練をしています。		夜の災害時に対応できるか不安を感じていますが、地域消防団の協力のもと訓練を積み重ねて、いざという時に対応できるようしっかり訓練したいと考えています。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについては、その時になって説明しても遅いので兆候が見られる場合は、ケアマネージャー、主任と協議をし、事前にご家族に方針と説明をして対応策を話し合うようにしています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体温、血圧、排便等の計測記録を毎日行っており、変化がある場合はケアマネージャー、その棟全職員が情報の共有を図り対応するようにしています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケアマネージャー主体に全職員が薬の目的、副作用、用法、用量の理解に努め服薬の支援については名前と数量を確認、手渡しで支援するようにしています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	原因や影響を理解して水分確保の促しや予防のために体を動かすように廊下を歩くように働きかけたりするようにしています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員は口腔手入れの必要性を理解し、毎食後利用者の状態や力に応じて、できる方はできるだけご自分で、出来ない方は職員が支援をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は個々の状態にあった摂取量が毎食個々の記録を取り把握しています。栄養バランスを考慮した献立作りに努めています。水分量についてはご自分で管理できる方は個々のペットボトルを居室において摂取量の把握をしています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作成しており、官公庁からの通達等は回覧にして職員が自覚するようにしています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具等の衛生管理には十分配慮するよう、食材については毎日買出しして新鮮で安心な食材の使用管理に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りや建物の周囲には植木や季節の草花を植えてあり、また設備として緩やかなスロープや広い階段等、利用者やご家族、地域の方が親しみ易く安心して出入りできるようにしています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のロビー、廊下にソファのスペースがありロビーでは富江湾が見えて、利用者同士で話をしたり沢山集まった場合は唄を歌ったり楽しそうにしている光景が見られます。レクリエーションもロビーでしています又廊下のソファから外の景色が見えるところには、毎日のように来て鬼岳を眺めている方がいます。トイレは約2室に1ヶ所の配置をして近くて便利な工夫をしています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	前項に述べたように、ロビーや廊下、食堂で利用者同士または個々が思い思いに過ごせるような場所があります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分が使われていた食器、家具や小物入れ、ご家族や配偶者の写真等壁掛け等を職員も手伝ったりして、個々の方が気に入って生活できるようにしています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気候がいい時は窓の開閉を行い、そうでない時は各居室廊下に給排気換気扇が設置してあるのでそれにより、温度調節はこまめにチェックし冷えすぎ、暑すぎがないようにしています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力で歩行できる方は手摺の使用、歩行器を使うと安全に歩ける方は歩行器を使用、自力歩行が困難な方は車椅子を使用するよう一人ひとりの身体機能に合わせて生活できるようにしています。全てのトイレは広く車対応の方も自力で入り使用できるようになっています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご自分が経験のある野菜作りや、趣味をするように勧めたりして意欲や楽しみを持つことによって混乱や失敗の防止になるように努めています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外は芝生を植えてあり、いい天気の際は散歩したりしています。また中庭の渡り廊下や花畑そばにベンチをおいてあり日向ぼっこをしたり皆さん一緒に歌を歌ったりしています。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員間のチームワークを第一にすること、信頼関係を持つことに力を入れています。各職員の協調性、共通認識を持ちながら介護にあたることにより、利用者一人ひとりが楽しく明るく生き活きたホームでの生活ができることに繋がると考えるからです。

ご家族への取組みとして利用者のご家族の気持ちや意見を取り入れて介護計画に反映した介護計画のもと、日々のケアと記録を行い、一日の様子や健康状態を1か月毎にホーム便りと共にご家族へ報告しています。ご家族は利用者の様子が分かると、喜ばれています。

環境として、閑静な小高い丘の眺望に恵まれた場所にあることで、利用者の生活空間として最適だと思います。施設の外は畑作業や天気のいい日は散歩できる芝生もあり職員と一緒に楽しんでいます。ご家族がいつでも車等で面会に来れるように広い駐車場も備えています。

内部設備等として、施設内部は明るく、居室2室に1室のトイレや食堂の近くにも多目的トイレがあります。ひまわり棟浴室には重度者にも対応できるように又職員の負担軽減も考慮して機械浴も設置してあります。